

郡上市和良地域振興施設検討委員会 委員委嘱式・第1回検討委員会 会議要録

日時：令和6年8月6日（火）13:30～15:20

場所：和良庁舎大会議室

出席 林琢也、長尾亨、佐野みゆき、水野正文、古川雄太、西尾琢磨、池戸豊次、小森亮喜
河合保徳、岩尾尚人、中島幸夫
和良振興事務所 池戸浄二、加藤孝、藤代雄二
オブザーバー 三島宏治、河合厚志、古田光、篠好宏、酒井崇弘、三島保彦、多田司

<次 第>

1. 開会

2. 委員委嘱式

池戸所長より各委員に委嘱書を交付

3. 和良振興事務所長あいさつ

濃飛横断自動車道堀越峠工区・和良工区の事業化に伴う、和良地域振興施設整備に関する説明と経緯について説明。

4. 自己紹介

5. 委員長・副委員長の選出

事務局案により、次のとおり承認となった。

委員長 北海道大学大学院准教授 林 琢也

副委員長 郡上市自治会長連合会和良支部長 長尾 亨

6. 委員長あいさつ

7. 議事

（1）検討スケジュールの確認について

加藤課長より資料を説明

特に質問なし

（2）基本構想(案)の概要について

藤代係長より基本構想(案)を説明

8. 意見交換

議事（1）、議事（2）の説明を受け委員から意見などを求めた

- 委員⑦ 概要版をみると令和 11 年に工事完成ということか？
- 事務局 令和 11 年完成で予定している。
- 委員⑩ 和良地域振興施設は道の駅ということでよろしいか？
- 事務局 道の駅でよい。
- 地域振興にもつながるような施設を広く構想するということから「地域振興施設」としてスタートしたが、施設の設置に向けて考え方を整理していくなかで、「道の駅」として整備していくことが適切だろうという結論に至った。
- 委員④ 濃飛横断自動車道の IC は和良川公園オートキャンプ場の近くにできるのか？
- 事務局 和良川公園オートキャンプ場付近に整備予定と確認している。
- 副委員長 概要版下の図で緑になっている部分に濃飛横断自動車道がくるのか？
- 事務局 緑色の箇所には道路が整備される予定である。
- 委員⑩ 濃飛横断自動車道を施工する郡上土木事務所の方が出席されているので、概要について、話せる範囲内でよいので教えていただければと思う。
- 委員⑤ 工事は堀越峠工区での工事で排出される残土を利用し、盛土で施工するように進めている。ちなみに、堀越峠工区内でのトンネルは 3 箇所、残土は 70 万 m³を想定している。道路の幅は 8m である。
- 委員⑩ 工事の調査は始まっているのか？
- 委員⑤ 現在、予備設計を行っている。
- 予定されている路線と用水路についても検討しなければならない。
- 和良地域はオオサンショウウオの生息地として天然記念物指定されている関係上、そのことに関する協議や環境調査も実施しなければならない。
- その後、地元説明会を開催し用地調査に入ることになる。
- また、橋梁設計も進める。
- ちなみに、防災機能はどの程度の規模を予定しているのか？
- 事務局 道路利用者についても、ある程度は対象に含める必要があると考えている。
- 委員⑤ 濃飛横断自動車道は高規格道路となっており、一般道路とは違う。
- 早く移動するための道であり、分類でいうと高速道路の次にあたる。
- 道路利用者を含めるのであれば、大規模な防災施設が必要になると思われる。
- 概要版の図にはサイクリングロードが予定されているが、今後の検討として欲しい。
- 委員⑨ 概要版の事業者選定は土木業者のことか？運營業者のことか？
- 事務局 土木業者ではなく運營業者になる。
- 委員⑨ 概要版の導入機能はいつ決めるのか？
- 事務局 道路整備と並走しながら進めることになるため、この基本構想の中である程度の導入機能は決めておきたい。
- 細かなことは来年度の基本計画以降になるが、計画を策定する上で施設の規模感が必要であり、施設規模や面積を想定するためには導入機能を決める必要がある。
- 尚、民間施設については基本的に独立採算で行ってもらい、こちらからはスペースのみの整備になると考えている。
- 委員長 今回の検討委員会でどこまで意見を出していいかの？
- 事務局 良い基本構想を作成したいので、まずはどのような意見でも言ってもらいたい。
- 委員⑩ 道の駅和良について、道の駅連絡協議会の水野さんにいろいろ相談させてもらっているが、改めて道の駅についてご意見をお聞きしたい。
- 委員④ 最近で言うと、福井県大野市の道の駅に関し企画の段階から携わっていた。
- 現在の道の駅で、防災が大きなキーワードになると考える。

今回、和良地域内に整備を考えている道の駅について、現在の道の駅和良を移設するという考え方であれば、さほど難しいものではない。但し名称は「道の駅和良」としなければならない。

和良地域には和良川がある。鮎、オオサンショウウオ、蛍など、人をひきつける大きな魅力がある。集客に関しても、その魅力を伝えるためのアプローチや内容について、まだまだ未開発な部分が多いが、大きな可能性が感じられ、ポテンシャルは高い。和良の地域振興拠点ということでおさまるのではなく、これらの地域資源を郡上市がどう考え、どう活用し、市の東の玄関口としてどう整備していくのか、地域中心というよりも、市全体での取り組む姿勢や体制が必要である。そういう意味から、今回の基本構想内の入込客数の想定は少なすぎる。

今回は高規格道路沿いに整備ということだが、道の駅は道路を走行する中で施設がどのように見えるかが重要である。

大野市の道の駅は奥に建物を建てて、正面が見えるようにした。

また、道の駅和良を運営している「和良の郷総合開発」の関わりが重要であり、「和良の郷総合開発」には、それに対応できるような体制づくりを期待したい。

委員長 概要版に入づくりの進め方や仕組み、仕掛けの内容が本編に入っていない。
1人1人のポテンシャルを上げるための仕組み、地域住民が主役となり、主体的に関わるための方法を明示する必要がある。

事務局 10年後、20年後のまちづくりであるため、対象は若い世代であり、参画に結びつける具体的な戦略を練る必要がある。

副委員長 概要版のそれぞれの施設規模はどこから算出したか？

事務局 事業候補地の全体像から想定した規模である。

委員⑤ 八幡城の開城100年に合わせて施工だったが、概要版P.9の計画は早いと思う。

事務局 令和15年の誤りである。（訂正）

委員長 道路工事で農地にどこまでの影響が出るか？

委員⑤ 道路が農地にどこまで影響するのかはわからない。

現在、調査中であり、農地に影響が少ない線形で考えていきたい。

委員⑪ 道の駅はどんな人が使うのか？どんな目的で来訪されるのか？

事務局 現在の和良地域への観光入込客数と道の駅和良への来訪者数が近い数字となっており、数字上ではあるが、道の駅が和良の観光の拠点となっていると考えられる。
道の駅を利用する対象としては、観光で訪れる方、濃飛横断自動車道ユーザー、更に地域住民の方を想定する。

道の駅運営や収入ということを考えれば、観光客や道路ユーザーの取り込みが重要で、道の駅が目的地となるようなモノが欲しい。

更に地域の農作物や物産販売、観光施設との連携など、地域の産業拠点としての役割を担うことになる。

また、現在の道の駅和良では、レストランに地域の人たちが集う交流の場となっており、そのような機能は継続する必要がある。将来的なことを考えると、日用品が購入できる場所など、地域の人たちの日常生活を支える機能も必要ではないかと考える。

委員長 道の駅の目的とねらいは複雑である。

濃飛横断自動車道は東西を繋ぐ道であり和良は通過点となる。

来訪者は何を目的に、何に期待して来るのかは多様である。

様々な立場や利用目的の人に聞かれても、それなりに納得してもらえるようなメリット（利点）を想定しておく必要がある。

委員⑦ 誰が道の駅を利用するのということもあるが、何もなければ通過点になってしまう。

個人的に長野県の白馬村をよく訪れるが、登山やサイクリングの愛好者が車中泊などで道の駅を利用される。

和良は岐阜県の真ん中で、下呂、郡上八幡という観光地の間にあることから、周囲の観光地への活動拠点としての利用も考えられる。

事務局 和良でも、特に鮎釣り客は道の駅で車中泊される方が多く見受けられ、その一部は道の駅利用者や周辺住民からマナー等にクレームが寄せられるなど課題の1つと認識している。

先の市民ワークショップでは、RVパークという車中泊向けの施設整備という意見が出た。

委員長 交通量の増加率を観光入込客数の伸び率として試算するのはどうかと思う。

リニア開通時には、他のエリアの市町村も集客・誘客に力を入れるため、訪問客の取り合いになる。必ずしも伸び率が試算のように増加するといえないのではないか。

事務局 観光入込客数の伸び率に関する細かい分析は無い。

観光客、道路ユーザー、地元住民と対象は多用だが、導入施設ごとに対象を絞ることも手段のひとつかもしれない。

周辺の道の駅でいうと、郡上八幡を始点に飛騨方面を終点とした場合、せせらぎ街道から飛騨高山へ向かう場合は明宝の道の駅が立ち寄り場所になるだろうし、下呂を経由し国道41号で飛騨高山へ向かう場合は和良が立ち寄り場になる。また郡上市内の周遊ということであれば、市内の道の駅全体での連携が必要になる。

委員長 観光を強調するとマナーの割合とリスクの問題がでる。

来訪者10万人で仮にマナーの悪い人がいるとして1万人、来訪者100万人だと10万人になる。率は同じだが、日々の苦情の件数は大きな違いになって対応できなくなる。

事務局 和良川のオートキャンプ場は今の時期、キャンプ場利用者、川遊び、そして鮎釣り客と非常に賑わっているが、川の使用を巡ってトラブルになることが多々ある。また鮎釣りの解禁日には非常に多くの釣り人が来訪し、マナーの悪い人も多く、周辺住民からの苦情も多い。

委員長が言われた課題はどこの観光地や自治体でもあると思うが、他自治体等の対処例なども参考にしたい。

委員長 和良地域における産業と農業は、人材をどのように確保するかが課題である。また、地元の若者は進学等で地域外や市外に出る人も多いが、言い換えれば様々な経験を積んでいる貴重な人材でもあり、和良に戻って来る人もいる。そういった人たちとの連携を含めた長期的なビジョンが必要である。

委員⑪ 観光業はもろいところがあるので、そこに固執しすぎず、他の産業もあわせて盛りあげていけるとよい。

委員⑧ 地元住民を対象とした生活機能面での支援としては、日用品購入場所とガソリンスタンドが考えられる。道の駅内でガソリンスタンド整備となると、設置、維持管理に多大な費用がかかる。また2名の資格保持者が必要になるなどの条件もあり、参入業者が見込めるだろうか。私は自分の住んでいる家から片道20～30kmは生活圏と考えている。地元利用の少ない施設を整備することは、かえって施設運営上の負担となりかねない。近隣20km程度の範囲でガソリンスタンドなどの施設があるのなら、道の駅の中での設置はよく検討する必要がある。

委員会 そろそろ予定時刻になるが、他に意見はないか。

次回は市民アンケート、市民ワークショップ開催後となるため、その結果を事務局に報告していただくことになる。

9. その他

事務局

- ・ 資料差替えに関する連絡。
- ・ 今後の連絡に関するメールアドレスの確認
- ・ 市民アンケート（8/16〆切）
- ・ 市民ワークショップ（8/27, 9/10）の実施に関するお知らせ。

10. 閉会